

発言者	発言要旨
座長	議事の1番目、協議会の今後の方向性と取組・施策について、事務局から説明をお願いします。
事務局	(資料1～資料2-1説明)
座長	事務局から説明を受けたが、何かご意見等はないか。これまでの議論や論点整理を捉えた修正を踏まえて、文章化している。事務局からこの書きぶりが難しかったとか、特に委員に意見を聞きたいところがあるか。
事務局	組織の目的や役割について文章で表記しているが、市民に対してこれを説明するとき、入りにくいのではないかと懸念している。言葉で表記するようになるが、このまま出していいか、かみ砕いて表現した方がいいか、議論があった。
座長	委員から何かご意見等はないか。
委員	資料2の1『(3)リーダーと担い手の育成』の下線部「役員など担い手の更なる力量形成が必要となっている」で、ただでさえ役員の担い手がない中で、「力量形成が必要」という非常にハードルが高い文言をもう少しやわらかく(できないか)。やはり市民に向けての発信は、誰もが地域活動に参加しやすくなるようにしなければならないので、自分にそんな力量はないからやめておこうとか、こういうのは男性が得意だから男性がやってくださいという風習が鹿児島市でもまだ残っている中で、この「力量」という文言をもう少し変えた方がいいと思った。
座長	担い手の力量形成は、社会教育の分野でよく教科書とかに出てくる書き出しの言葉であるが、確かに少しドライでハードルが高い印象はあるかもしれない。
委員	(力量形成という言葉をも)もし変えるのであれば、さらなる研修とか、そこに学びを重ねていく力量形成という基があって(こそ)という感じもあるので、役員の担い手としてスキルアップが必要だと思う。ただ任期を全うすればいいみたいなのところもあるが、役員になって本当によかったという結果に至るように、協議会も努力しないといけないと思う。なので、担い手のさらなるスキルアップが必要であるというような言葉があればより良い。役員になったからもうそれで終わりではなくて、役員になって自分を高めるものがあると思うので、そうすると次の人にそれが伝わっていくと思う。
座長	カタカナ、英語はやめておいた方がいいというのがよく市の文書にはありがちだが、スキルアップだと少し柔らかくなる。「スキルアップが必要」というより「スキルアップのサポートが必要」「(スキルアップ)しやすい方法や環境が必要」というような柔らかい表現をもう一度検討いただけるか。他にあるか。
委員	力量形成のところで、役員はどんな力量だったらいいのか見えずらいと感

発言者	発言要旨
	<p>じていて、何のスキルを身につけたらよりよい協議会の運営ができるのかがもっとクリアになった方がいいと思う。そこが曖昧な状態で役員になったり役員を育成する立場になったりしたときに、どう育てたらいいのかが見えないと育成がしづらいと率直に感じた。</p> <p>役員になったときに身につけられるスキルや経験は、協議会以外の部分でも生かせるところが見えるのはポイントだと思ったのと、担い手育成が組織の役割としても入っていいと思った。</p>
座長	<p>組織の役割の中に、今のところ育成は入っていない。具体的な何か盛り込めそうか。</p>
委員	<p>退職後、地域活動するときに、様々な年代と立場の方と、どうやって一緒の方向性に向けていくかは非常に難しい。自分が企業でみんなでやっていた（やり方を）そのまま持ち込むとうまくいかないし、こういった（スキルアップ・力量形成という）文言もビジネス用語になりがちところが気になっていて、いろんな世代の方がより参画しやすい状況にするために、嫌々やる方と一生懸命やる方でモチベーションも違ってくるので、他の協議会や他の自治体の先進事例で取り組みやすいところを具体的に学んでいく研修が、学びの場になる。実際やりながらジレンマに陥るところだが、ここの文章を整理していただくと思い思う。</p>
座長	<p>生涯教育の基礎でもある学校教育では、学力3要素の3番目は意欲・態度に関するもの（学校教育法第30条「主体的に学習に取り組む態度」、高大接続答申「主体性・多様性・協働性」、現行学習指導要領（資質・能力の3つの柱）「学びに向かう力・人間性」など）で、意欲も実は学力に入る。そういう意味では、基本的にモチベーションや態度の喚起も重要。ここの文言は、今のご意見も参考に検討いただければと思う。他にあるか。</p>
委員	<p>資料2の『委員に確認いただきたい点』の組織の目的の「多様な地域活動を行う地域コミュニティ組織の有機的な連携を図り」の中に「包括的」という言葉を入れると、より具体的な動きをとれると思う。運営する側の固執的な観念のもとで運営しているところもあるので、「有機的、包括的な連携を図り」という言葉を入れると、より地域を取り込んだ包括的なところでやっていくことを意識して（もらうために）、目的の中に入れるといいと思った。</p>
座長	<p>「有機的、包括的な連携を図り」という形で検討していただきたい。</p>
委員	<p>前回までの懇話会の中で、次のフェーズにおいては実践的な部分のヒントやキーワードがあるといいという話だったと思う。有機的な連携はイメージはできるが、具体的なアクションとしては、協議会に関わる人たちや住民の関係性をどう構築していくかが大事だと思っていて、（さらに）今回小中学生が入ってくると、関係性をどのように構築して、そこからどう連携を図って</p>

発言者	発言要旨
	<p>いくつかになると思う。その関係性の構築という意味では一つの手段・ヒントとして対話の場が出てくると思うので、その手法も一つ実践的なキーワードを置いてあげるといいと思う。この言葉（キーワード）を置くだけで、次のアクションに入るときに、対話を大事にしようとか、関係性の構築を大事にして連携していこうという流れができるといいと思う。</p>
座長	<p>組織の目的に、連携を図るための関係性の構築の方法のようなものを入れて、具体的な取組の方で、実践的な対応に関するキーワードが入ればヒントになりやすいと考えか。</p>
委員	<p>違和感がないか聞いてみたい。</p>
発言者	<p>現場とのすり合わせは重要な気がする。現場で実際に責任を持ってやるものの感覚としては、もう少し突っ込みたい歯がゆさを感じているので、協議会の会長の現場の声は、このたたき台を基にして触れさせることで、かなり現実の問題点に沿った報告書ができると思う。まだまだ現場では重い苦しみを抱えているので、なかなか出てこないという感覚がある。</p>
座長	<p>以前（第2回懇話会で）ヒアリングした際も、いくらでも時間を割いて聞いたかったので、報告書を作る前に聞く機会はあるか。</p>
委員	<p>時間的に難しいようであれば、含みきれてない声もあるので、もう少し調査を丁寧に分析する必要があると、報告書の中に一文入れてはどうか。</p>
座長	<p>あるいは「随時各役員、会長の声を吸い上げながら進めていくべき」みたいに、行政の具体的な取組に入れてもいい。そうすると網羅する気がする。もっと突っ込みたいという意見だが、現場ではもっとこれが必要、実践的にこうした方がいいという感覚をお持ちか。それともこれが足りないという課題感があるか。</p>
発言者	<p>私たちの立場から言うと、この報告書が確かに心理をついている面もある。しかし今抱えてる困難から言うと、こんなものなのかという気はする。我々はもうコミュニティビジョン自体に限界を感じている。平成24年度に（協議会が）発足したときは、町内会はもう難しくなった。しからば、地域コミュニティをどう運営するか、いわゆる地縁によるコミュニティ組織が他にあるので、そこを力に変えていこうということだ。対象は地域コミュニティ組織だから、若者や子どもの問題にしても、対象は全住民といった場合に、そこを脱皮していかないと、私たちが抱えている問題は出てくる。もう組織ではなく住民が相手じゃないかと（思う）。そこをどうするのが一番大事な面で、みんな悩んでいると思う。だから、ビジョンから抜け出さないと、ビジョンの枠内でどうするかというのは現実には合わなくなっていると感じる。</p>
座長	<p>確かに、住民とその生活の課題がダイレクトで返ってきて、活動がうまくいかない現実に毎日ぶつかると感じていると思うが、前回（第3回懇話会で）</p>

発言者	発言要旨
	議論が出たように、若者とか小中学生との関わりから学校、コミュニティスクールという形で関わると必ず組織外も含めた家庭や周囲の住民の生活も出てくるので、今回の報告書ではそのあたりも住民に広がりが出てくる感じに表現される気がする。他にあるか。
委員	資料2の1『(2)地域住民の参加・参画の促進』の「青少年健全育成の観点から」というところが、文章が少し長くてわかりづらいので、例えば小中学生は見守られる側だけれども、あなたたちと一緒に地域づくりに参加するというのをわかりやすく表現した方がいいと思う。
座長	関与してきたなども回りくどい印象がある。 それでは、事務局から残りの資料の説明をお願いします。
事務局	(資料2-2~2-5説明)
座長	まず資料2の2『施策の基本的方向性』については、委員の議論でまとまったキーワードが最新の鹿児島市総合計画で謳っているものと合致しているので、スムーズかと思う。それから資料2の3『今後必要な取組・施策』について、委員の意見を吸収するということが、何か意見があるか。特に項目3は、先ほど意見の中でも関連するものがあつたと思うが、具体的な取り組みとして足したら効果的なものがあるか。一つずつ見ると、左上の『協議会という組織と活動目的の再確認』では、協議会としては協議会内での話し合いの推進というところ。これまで熱く議論してきたように、位置付けや目的を再確認するために、協議会内でただ漫然と任期を全うするのではなく、話し合いをするということだが、そのための具体的な取組例として、協議会では、この他に必要なものがあるか。
委員	関係性の構築の部分でいうと、ここに対話の場づくりみたいなのがあつたらいいと思った。
座長	関連して、委員の先ほどの意見は、協議会の中でか、それともその右の『地域住民の参加・参画の促進』でこんな場づくりがあるという形か。
委員	何か共通した一つの軸なので、全部に当てはまる感覚ではあるが、もう少し手段的に1個上みたいところでキーワードがあるといいと思う。でも、住民参画の方が伝わりやすい。
委員	参加・参画の中に入ると思うが、体験を具体的に一つは入れた方がいいと思う。特にこのコロナ禍でそういう場がほとんどないので、改めて見直しながら加えていくのは必要だと思う。福祉面も、体験できる場も必要かと思うので。
座長	参加しやすい、実践的な経験や体験の機会の検討、といった形になるか。
委員	そこまで入れるとあまり具体的すぎるが、この文字列の中に何か入れておきたいと感じる。

発言者	発言要旨
座長	<p>体験は非常に学習効果が高いと思う。左上はその協議会を運営していくためのもので、右上はとりあえず活動に参加する人を作る、あるいは緩やかなつながりや、関係性を作るといこと。とすれば、体験に関する文言が入ってもいい気がする。それから先ほどの委員のご意見に沿ったキーワードは何だろうか。よくあるのは「場づくり」だろうか。</p>
委員	<p>対話の場づくりは一つのトレンドとして挙げられてきたと思う。それを今回載せることによって、まだ対話という文化に触れてない協議会や住民が、自分で対話って何だということから触れ、体験に繋がると思うが、安心安全な対話を地域の中でどう作っていくか、関係性づくりの手法という形で住民参加・参画のキーワードとしてそこに置いておくと、まだ触れてない人が触れたときに、より良い暮らしに繋がるヒントになる感じがする。</p>
座長	<p>(委員とも合わせて、) 対話の場づくりやそれに関連するようなキーワードと、体験・経験・機会に関するキーワードを右上の協議会の具体的な取組例に出したらどうかという意見か。</p>
委員	<p>今の具体的な取組例の中で、第3回懇話会で委員から小中学生に呼びかけると保護者は絶対参画してくるという意見があって、とても大事なことであり、具体的な取組のところに「校区の小学校との連携」があればいいと思う。小学校のPTAや教職員と連携すると児童の地域参加にもつながり、さらに発展して中学生、高校生等青少年期の世代の地域活動への参加も期待できると思う。先日校区の小学校の50周年記念の企画をするにあたり、PTAの役員から協議会に、実行委員会を立ち上げるので参画してほしいとあり、役員に小学校の30周年記念事業に関わった者がいたのでそのときの小学校と地域との関わりを話したら、校長先生、教頭先生、PTA会長たちと、そういう歴史や流れがこの地域にあるという情報交換ができて話が盛り上がった。今の世代の方たちは知らない昔のことが繋がっているということがわかり、小学校との連携はとても大事なことでこの前の会議で思ったので、ぜひそこを入れてほしいと思う。</p>
座長	<p>コミュニティスクールの導入に合わせた小中学生の参加・参画の促進の中に、何らかの形で入れ込めるか、あるいは並列できるか、検討いただけたらと思う。コミュニティスクールとなると、教職員やPTAは時間がない感じや上層部がやっているイメージがあるか。教職員やPTAとの連携が入った方が具体的だが、そのあたり精査していただければと思う。</p>
委員	<p>発言者の内容を入れ込むとすれば、例えばガバナンス的なものが必要であるという議論でもある。現状と課題に、既存の組織の目的が少し曖昧になってきているとか、再設定が今求められている。ある意味、そういったガバナンス的なところも含めた、目的の再設定も課題の中に入れることによって、組</p>

発言者	発言要旨
	<p>織の改編や目的の再設定も、当然同時並行として必要になっているかもしれない。グラデーションの構図はすごくいいと思っているが、一方で、地域と関わっていて感じる場所は、既存のやり方では回らないもの考えたとき、もう一度目的の再設定が必要であり、既存の組織では立ち行かないからこそ、団体に任せても、団体の弱体化とか、目的の曖昧化が進んでいる中で、協議会としてどうしていくかという議論もしにくいところは確かにある。協議会ごとにそれぞれ特色があって然るべきだと思うけれど、一方でそういったガバナンス的なところや組織の改編みたいなニュアンスは入れてもいいと思っている。</p> <p>いずれそれぞれの組織が5年10年先に必ず向き合わなければならない問題なので、その部分は今回の懇話会の中で発言者が言われた問題提起は5年10年先を見た場合に大事な気がするので、できれば今の話を現状と課題の方に少し入れつつ、資料2の3左上の『協議会という組織と活動目的の再確認』に、ガバナンスという言葉を入れるかどうかは議論するとして、活動目的の再設定や、できれば右下に組織内部におけるミッションの再定義も入れておくことが、今後のコミュニティの内容をどう充実させていくのか、どういう方向性を向いていくか一つの指針にもなると思う。</p>
事務局	<p>それはそれぞれの協議会で自分たちの協議会はどうあるべき、ということか。全体の目的はこれでいいが、協議会で当然いろいろ変わるはずだから、そこをもう1回見直そうということか。</p>
委員	<p>おそらく今後協議会をどうしていくべきかの話題は段階的に出てくるはずなので、その際にどのような方向性が望ましいとか、可能であるかは残しておくべきだと思うし、しっかり記述していくべき。</p>
座長	<p>ガバナンスというとまた横文字で注釈が必要になるが、企業には響きやすい用語なので、協議会はこれまでと違う新たな機能も果たす地域全体という印象になる気もする。結局のところ大きな視点で、非常に難しい多様な地域を運営するガバナンス感覚、経営センスがある人がいれば、一気に運営しやすくなるのは確か。左上の具体的な取組例に、各協議会の目的や運営方法等の検証、再設定の検討など、ガバナンスのニュアンスを入れるか検討をお願いします。</p>
委員	<p>それぞれの団体組織において、方向性や協力関係が必須になっている中で、団体に任せて緩やかな連携の協議会も、最初の入口としては非常に重要であり今後も注目していく必要があるが、現在、いくつかの協議会は、今後の方向性を考え、組織を再編していかなければならない段階に入ったとみている。これから5年10年先のコミュニティを考えると、当然組織再編の課題が浮上すると思われるので、行政側もそのあたりは押さえつつ、コミュニティに</p>

発言者	発言要旨
	<p>関する研究や分析をしていくことは示した方がいい。せつかく先駆的な取り組みをやっているわけだから。</p>
委員	<p>これまではそれぞれの協議会にお任せしていて、それぞれが頑張っていると行政は言ってきたと思うが、懇話会をここに設けたのは、今の現状を全員底上げしていくところになると思うので、これを全部これから協議会に投げっていく中で、この下の次に出てくるのが、コーディネーターになってくると思う。だから、具体的なこともこの中に入れていいと思う。やはり協議会として必要な部分を文言としてこの中に入れて、ある程度底上げをしていくことになると思うので、具体的な言葉を入れていくのもありだと思う。</p>
座長	<p>資料2の4『協議会へのメッセージ』の下にあるマトリックス図がわかりやすいと思う。これまで何となく文面で位置付けや意味付けと置いていたかもしれないが、うちはこの辺だというのを思った上で、これからどうやってガバナンスをしていくか改善がしやすいと思うので、そこを結びつけるような具体的で各論的な取組例や施策例を少し増やしてもいいと思う。</p> <p>資料2の3右上の『地域住民の参加・参画の促進』の『市』に好事例の共有やガイドラインの作成とあるが、この好事例は市内の協議会の中の事例か。左上の『協議会という組織と活動目的の再確認』の『市』の具体的な施策例が少ないので、他都市、他地域の先進成功事例の研究、検討を入れると、それを右側や下、勉強会に反映できる（と思う）。やることを増やすと大変になってくるが、少なくとも検討みたいな感じで、外に目を向けるのも必要であれば足したらどうかと思った。それから先ほどあったように、協議会の会長、役員の見解をその都度吸い上げるというのがどこかに入ったらいいと思った。</p> <p>それから右上の『地域住民の参加・参画の促進』の『市』では、これまで企業向けに協議会に積極的に参画くださいという周知案内をする機会はあったのか。もしなかったようであれば、例えば企業の団体も商工会議所、経営者協会、同友会など、地域が大事だと理解し、実感しながら研修を積んでいると思うので、そういうところの事務局に流すだけでも、こんなふうに市からきたので地域の協議会にぜひ参画しましょうみたいな雰囲気ができるのも大事だと思う。これまでにやっていないのであれば、産業界を動かすと（いうのは）大きな影響力があり、これまでとは違うアプローチだと思うので、そのあたりの周知とか広報を足されたらどうかと思った。多くなりすぎる場合は精査いただければと思う。</p> <p>では、左下の『リーダー及び担い手の育成』で足すべき文言等あるか。先ほどの力量形成になるが、具体的には、啓蒙、研修、学習機会の活用など。</p>
委員	<p>例えば、校区公民館運営審議会だったときは、会長を集めてそれぞれブロック単位に分かれて意見交換があった。マトリックス図のDに「協議会の部</p>

発言者	発言要旨
	<p>会同士が話し合う機会を設け」とあるが、ブロック単位で意見交換できるような（場を）定期的に1年に1、2回という形で設けてもらおうと、近隣がどうしているか（わかると思うので）これからの学びになると思う。</p>
座長	<p>単体で会長同士がではなく、ブロック単位で年に1回でも意見交換、それこそ場づくりがあればいいということか。</p>
委員	<p>コーディネーターの管轄でもいいと思うが、そういう（場を）定期的につけてもらえるといいと思う。</p>
座長	<p>他にあるか。では右下の『行政内の連携・協力体制の充実』、これは行政内なので市しか文言がないが、何か意見があるか。</p> <p>（前回までの懇話会で）委員の意見の中にICTの関係が多かったと思うが、市の方で「事業計画やICT導入等のガイドライン作成」とあるので、ICT関係の部署の連携でサポート体制ができるか検討みたいなのがあればいいと思ったが、これは「部局間連携事業の検討・実施」に当てはまるかもしれない。委員がよくICTの話をしていたので、ICT関係のサポート体制の検討みたいなのがあればどうかと思った。</p> <p>次に4『協議会へのメッセージ』について何か意見があるか。この報告書を受け取って、委員自身の協議会を見たときに、これがもう少しあるといいというのがあるか。</p>
委員	<p>これはそもそもこの3つなのか。</p>
座長	<p>資料1の現状と課題からきていると思う。</p>
委員	<p>一つだけ気になるのは、基本的には参加・参画の大原則は「その場に来る人」であるが、それはもう限界を迎えている。具体的には、活動は主にみんなが集まりやすい時間で設定されるため、そこに来る人しか活動や情報を共有できないという構図ができています。要するに、活動に参加できなかった人たちに対し、「今何をやっている」とか「どういう議論が展開している」のかの周知が重要である。文言が多いのでちょっと入れるのは難しいかもしれないが、活動のいわゆる共有とか情報の提供とかが結構大事なテーマな気がする。この項目に、入れた方がいいと思っている。ニュアンス的に参加・参画の概念が広がっていることは理解してもらわないと、参加・参画がすごく現実的な、（その場に）来ることを大前提にするような世の中は限界がきていると思う。</p>
座長	<p>入れるとすれば『(2)地域住民の参加・参画の促進』のところ。</p>
委員	<p>一度関わると抜け出せなくなるのではなくという言葉はきつい。</p>
座長	<p>少しネガティブベースだが（協議会にいる人の）実感はこもっている。</p>
委員	<p>現実はそのけど、（書くのは）どうだろうか。</p>
座長	<p>ネガティブな言葉は書いてしまうと印象が倍増するので、少し違う表現に</p>



発言者	発言要旨
	変えた方がいいかもしれない。
委員	この表現をさっき言った、情報の共有における、参加できるように、みたいな形で変えるといい。
委員	関わるのが楽しくなるという表現だといい。
委員	すごく現実だと思う。
座長	「抜け出せなくなるのではなく」と書いてあるとかえって「ああ抜け出せないんだ」と思ってしまう。
委員	一度関わるととても楽しくなるという表現に変えてほしい。
座長	あるいは自身の人生生活に（楽しく）役立つみたいな、そのための情報周知（ができればいい）。
委員	その活動の情報が共有され、それをもとに参加・参画しやすく、とかそういうのがいい。
委員	3つ目の『リーダー及び担い手の育成』に、「地域活動を盛り上げていくには、部会の活性化が必要不可欠」とあるが、（必要不可欠ではなく）「とても大切」みたいな感じでいいと思う。
座長	確かに、柔らかくするといい。他にあるか。
委員	今議題になっていた『地域住民の参加・参画の促進』の、「緩やかなつながり」というキーワードがいい表現で、これを市民が見たときに、まちづくりに積極的な人はある程度難解な言葉を使っても通じるが、そうでない方たちが見たときに、こういう活動、こういう気持ちでもいいんだと思わせてくれる文言だと思い、資料2の3『協議会という組織と活動目的の再確認』の中で、よく協議会で考えるときにこの校区に住んでよかった、これからも住み続けたいと思えるまちづくりというのがキーワードで、それは楽しさにも繋がるので、ここにこの地域に住んでワクワク感があるということを思い起こさせるキーワードがあったらいいと思った。それに関連して、このマトリックス図のD『協議会間の連携協力・連合』の「スケールメリット」という言葉も少し難しい。こちらも少し平易な言葉で表現できたら読み手に伝わりやすい。
座長	同感で、緩やかなつながりは委員と議論する中で出てきて、すごくいいと思った。それから、確かに住んでよかったというのがにじみ出るような文言があればいい。 それでは最後に、この資料2全体が本日のメインの協議になっているが、資料2全体を通して何かご意見等あるか。ないようなので、議事の2番目、コミュニティ意見懇話会報告書目次（案）について、事務局から説明をお願いします。
事務局	（資料3説明）
座長	それでは、この報告書の目次案ということで資料3にあるが、これらの、文

発言者	発言要旨
	言、目次案でよろしいか。何かご意見等あればお願いします。5の資料集にアンケートの結果やヒアリング調査の結果も載るといことなので、委員が言われたように、研修や集まりの場で、この報告書をもとにアンケートを見ながら検討しやすくなる気がする。よろしいか。
委員	これは、各協議会に配付される予定か。
事務局	そのとおり。
委員	コーディネーターがこれをもとにして各協議会に説明する形になると思うので、これを見た方たちが、冊子をもとに討論をしていくぐらいになっていけばいいと思う。今この文字面だけではどうなるのかわからない部分もある。生かされればいいと思う。
委員	実際にはどのように活用されているのか知りたい。そもそも、どう活用するかは、全部コミュニティ側にお任せになるのか。
委員	多分投げられると思う。コーディネーターが、各協議会の現状を把握した上で、この冊子はこういうことを謳っているというところまで投げてもらい、その協議会がさらにそれを協議するぐらいの感じにならないと、私たち（委員）の意見は何も生かされないと思う。
委員	この報告書の活用方法として、今後、検証やブラッシュアップみたいな流れが出てくるのが、重要だと思う。その際、コーディネーターのさじ加減で活用していくのか、それとも市が（協議会に）積極的に活用するように促せるものなのかわからない。報告書の活用に関する議論が私たち（委員）の役割にあるならば、ぜひそこまで話したい。
委員	これが冊子としてある程度まとまったら、もう一度私たち（委員）は議論する必要があると思う。どこでもそうだが、委員会が設けられて、修正した（ところが）そのままになっていて、あとからほとんど（改善が）見えない状況があるので、勉強会ができるぐらいの感じにしていくには、やはり土台もある程度しっかりできていないと（いけない）。こんなことできないというようなところにポンと投げられたら、私たちの会はあまり意味がないと思った。
座長	具体的な取組の中に、報告書の周知、取り組みやすい研修のための周知徹底みたいなのが入ってもいい。総合計画でさえ苦勞して作っても、市民はほとんど読まない。周知広報はいつも課題になりやすく、若者に周知するための方法を学生と考えると、若者や中高生に向けたプログラムをやっている自治体もある。市かコーディネーターが、その協議会の会長や役員がつながるメーリングリストやメールマガジンはあるか。
事務局	実務的にはメルマガ等は出してはいないが、多くの協議会が定期的に開いている役員会に、市の職員やコーディネーターが定期的に参加しているので、資料2の3『協議会という組織と活動目的の再確認』の市の具体的な施策例

発言者	発言要旨
	で、報告書の作成・周知、協議会の啓蒙とあるのは、そういう役員会等の場での周知、啓蒙をイメージした。
座長	できあがってみたらすごく硬い文章で、例えば届いてもそのまま置いておくだけの報告書で終わらないように、「報告書は読みましたか」「これを活用してぜひ議論しましょう」みたいな、やわらかい間のつなぎ役をコーディネーターができる、あるいはその役員会ができればいいと思った。
委員	最後のページにチェックリストがあってもいい。そこに呼びかける冊子であってほしい。
座長	有用な情報であっても、定期的にリマインドや啓発の機会がないとなかなか浸透しない。これまでに協議会関係で作られた資料は、実際の現場の方の意見を吸い上げたもの、アンケートやヒアリングをまとめたのは初めてか。
事務局	協議会設立後は初めて。コミュニティビジョンを作った後に、協議会を立ち上げていく中では、それぞれやってきたところだが、協議会が立ち上がったからは初めてになる。
座長	苦労されている方々にも実情もいろいろ情報が入っているので参考になると呼びかける感じの、内発的でもいいので、そういう形になればいいと思った。ぜひ活用方法も併せて前向きに考えてもらえればと思う。